太宰府の文化財 402

天満宮周辺の条里

古代の大宰府には、「天下の一都会」と記された街がありました。それは奈良や京都の都のように碁盤の目に整然と区割された街で、その痕跡は、なかなか気づきにくいのですが、今も街のいたるところに残っています。

条坊と呼ぶこの街の北辺にあった大宰府政庁の前を通る東西道は、都へ向かう官道ともつながっており、街にとって重要な東西道路でした。この道は、今は市役所の前を通る県道に引き継がれており、この道から、古代の条坊の街の東西幅をおよそ知ることができます。かつては、道の西端・関屋交差点付近が条坊の西端であり、また条坊の東端だった五条交差点は、今もほぼそのままに使われています。

今回紹介するのは、太宰府天満宮周辺の地割です。これは条坊の街の外側に広がっていた、古代の水田区画に由来する「条里」と呼ばれるものです。一辺約109mの地割で、正方形や平行四辺形の地割が道路や敷地境となって、今も街並みのなかに残っています。

この条里は、五条交差点が起点となっています。地図上で五条交差点から東へ東西線をのばし、それから北側に109mずつ間隔をあけて平行線を引いてみると、これと一致する東西道路や区割りが見つかります。これらは条里地割を引き継いでいると考えられ、発掘調査でも、これに沿った古い時代の溝などが見つかっています。おそらく、梅大路交差点から九州国立博物館の駐車場に向かう東西道路や、天満宮門前の店が並ぶ参道は、条里の地割が起源となっていると考えてよいでしょう。

さて太宰府天満宮は、大宰府に左遷され903年に亡くなった菅原道真の墓所です。伝説によれば、亡骸を牛車で運んでいたところ、突然牛が動かなくなったため、これを道真公の思し召しとして亡骸をそこに埋葬した、それが太宰府天満宮の始まり、とされています。

実は、天満宮本殿の位置は、この条里の東西道が推定される場所と一致します。今はここに道路はありませんが、のちに門との関係で南へ少し移されたと推測すると、かつて牛車が通った道が地下に埋もれているかもしれません。その道は、この西方で、古代山城の大野城・太宰府口城門に至る登城路とつながっていたことも十分考えられそうです（太宰府市民遺産第3号「かつてあった道『四王寺山の太宰府町道』」と一致する山道です）。

条里は、太宰府の街のなかに息づいており、千年前の風景を今につないでいます。

文化財課　井上　信正

編集／太宰府市総務部経営企画課：〒818-0198　太宰府市観世音寺一丁目1番1号
☎092(921)2121　FAX(921)1601　keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp
この広報紙は再生紙を利用しています。